

評価シート

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2027年3月31日	評価番号	A-222カ・マ・タ	
評価技術名称					連絡先	https://www.aichi-gensai.jp			
構造用合板補強工法 大壁「1間横使い」					愛知建築地震災害軽減システム研究協議会				
入隅等「勝ち・負け・単独」裏栈あり					実験実施機関：名古屋工業大学				
概要	技術概要								
	<p>構造用合板を横向きで用いて、入隅部等1間の壁面を補強する工法。</p> <p>カ：入隅部を対象壁勝ちとする仕様</p> <p>マ：入隅部を対象壁負けとする仕様</p> <p>タ：片側を受材仕様で単独壁とする仕様</p>								
要	技術の特徴						コスト		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1間の間に柱がない場合にも有効</li> <li>一般流通品なので取り扱いが容易</li> </ul>						サンプル 構面	カ：32,615 円/kN マ：39,242 円/kN タ：39,242 円/kN	
仕様	適用範囲				写真・図				
	構法	木造在来軸組工法			大壁				
	規模	3階建て以下			対象壁勝ち：カ				
	基礎、地盤	特になし							
	適用部位	内外壁			対象壁負け：マ				
	耐震性能								
	評価仕様：大壁直貼仕様				単独壁：タ				
			壁基準耐力	壁基準剛性					
		「対象壁勝ち」	4.68kN/m	1206kN/rad./m					
		「対象壁負け」	3.64kN/m	938kN/rad./m					
		「単独壁」	3.64kN/m	938kN/rad./m					
	A-111からの低減係数α								
	対象壁勝ち α=0.9：壁基準耐力 5.2×0.9=4.68								
	対象壁負け α=0.7：壁基準耐力 5.2×0.7=3.64								
	単独壁 α=0.7：壁基準耐力 5.2×0.7=3.64								
設計方法									
① 柱接合部による低減：取付部分が健全であること									
② 劣化による低減：取付部分が健全であること									
施工者指定									
特になし									
主要構成部材の仕様									
構造用合板	大壁、厚12mm、横使い 各高さ400mm以上 釘 N50、CN50、@100mm以下 四周打ち、端あき15mm以上20mm以下								
間柱	なし								
継手受材	奥行30×見付90mm以上 柱、下地材に対して、釘2-N75斜め打ち								
上下受材	なし								
四方受材	なし								
下地材	奥行30×見付40mm 柱に対して、釘N75@150mm以下 またはN90 @200mm以下								
アルミアングル	なし								
かさ上げ材	なし								
				継手受材 正面から見て 90mm 下地材 正面から見て 40mm					